

# 新年のごあいさつ



秋田県議会議長  
能登 祐一

新年おめでとうございます。

水土里ネット会員並びに関係の皆様が、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から農業用排水施設の整備・管理や水田等の農地整備を通じ、本県農業・農村の振興と活性化に多大なるご貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は、環太平洋経済連携協定、いわゆるTPP交渉への参加や、主食米の生産調整廃止の決定など、農業問題で大きな動きがありました。

私ども県議会では、3月にTPP交渉参加表明に対し、農林水産物の重要5品目を関税撤廃対象から除外することなど、国益を断固として守り抜くことを決議するとともに、8月には関税維持をはじめ、国益にかなわない場合は交渉から即時撤退するよう、強く要望する意見書を国に対して提出いたしました。

また、コメの生産調整廃止につきましては、取り組み次第では米の過剰基調が増幅し、米価の下落や乱高下が懸念されることから、稲作経営の安定に向け、助成が拡充された飼料米等に取り組みやすい環境を整えるなど、米の需要安定に向けた対策が求められております。

このように、農業を取り巻く環境の変化が著しい中であって、農地や農業施設等の地域資源は、農業者の高齢化や担い手不足、農業を支える地域共同体組織の機能低下などによって、その適切な維持管理が困難な状況となってきております。

農業施設の長寿命化と防災対策をはじめ、集落営農の推進や農業生産法人の育成、統合整備問題など、地域住民の期待に応えるための多くの課題を抱えていることから、皆様が担われる責務は、ますます重要で困難を伴うものとなってまいります。

県議会といたしましては、皆様の円滑な事業遂行のため、関係機関への働きかけはもとより、急激な変化に対応した県独自の施策の展開などに今後とも努力してまいりますので、どうか、皆様におかれましては本県農業のさらなる進展に向け、これまで培ってこられた英知を遺憾なく発揮され、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年が水土里ネット会員並びに関係の皆様にとりまして、よりよい飛躍の年となりますことを心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

# 2014年度 予算案が 閣議決定される

## 平成26年度農林水産予算案決定 農政大転換へ2.3兆円

政府は去る12月24日、2014年度予算案を閣議決定し、農林水産分野の予算案は2013年度予算に比べ1.3%増の2兆3,267億円となった。農地の大規模化を進め、コメなどの価格競争力をつける政策に軸足を置いたもので予算増額は2年連続。なお、2013年度の補正予算で農林水産分野はすでに4,310億円を確保しており、合算すると2兆7,578億円となる。

最大の特徴は点在する農地をまとめて借りて再生し、大規模農家に貸し出す農地中間管理機構（農地バンク）の創設。活動費として305億円（今年度補正予算で400億円）を計上し、水田を大区画化する工事費用も含めると合計で1,000億円を超える。2014年度に全国で15万ヘクタールの田畑を拡大し、農業のコスト競争力を高めるねらい。

また、農地の保全に協力する集落を対象とした「日本型直接支払制度」には483億円を盛り込んだ。自民党が政権公約に盛り込んだもので、用水路などの管理を支援する制度と農業の多面的機能の発揮のための地域活動を支援する制度で構成されている。

### 平成26年度農林水産予算の骨子

総括表

(単位：億円)

区 分	25年度 予算額	26年度 概算決定額 A	(25年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
農林水産予算総額 (対前年度比)	22,976 —	23,267 101.3%	4,310 —	27,578 120.0%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,506 —	6,578 101.1%	1,728 —	8,306 127.7%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,314 —	6,386 101.1%	1,349 —	7,734 122.5%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	379 —	572 297.1%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,469 —	16,689 101.3%	2,582 —	19,272 117.0%

公共事業費一覧

(単位：億円)

区 分	25年度 予算額	26年度 概算決定額 A	(25年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
農業農村整備 (対前年度比)	2,627 —	2,689 102.4%	800 —	3,489 132.8%
林 野 公 共 (対前年度比)	1,796 —	1,813 100.9%	439 —	2,252 125.4%
治 山 (対前年度比)	611 —	616 100.7%	165 —	781 127.7%
森 林 整 備 (対前年度比)	1,185 —	1,197 101.0%	274 —	1,471 124.2%
水産基盤整備 (対前年度比)	721 —	721 100.0%	110 —	831 115.2%
海 岸 (対前年度比)	40 —	40 98.8%	— —	40 98.8%
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	1,128 —	1,122 99.5%	— —	1,122 99.5%
一般公共事業費計	6,314 —	6,386 101.1%	1,349 —	7,734 122.5%
災害復旧等	193 —	193 100.0%	379 —	572 297.1%
公共事業費計	6,506 —	6,578 101.1%	1,728 —	8,306 127.7%

(注) 1. 金額は関係ベース。 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。 4. 25年度予算額は、東日本大震災復興特別会計への繰入れ分(津波対策33億円)を含む。

### 平成26年度農林水産予算の主な重点事項

#### 総額 2兆3,267億円 (2兆2,976億円)

(※) 各事項の下端( )内は、平成25年度当初予算額

#### ■担い手への農地集積・集約化、担い手の育成等による構造改革の推進

- (1)担い手への農地集積・集約化 **【補正予算】**
- ①農地中間管理機構による集積・集約化活動 **400億円**  
【新規】  
・担い手への農地集積・集約化等を加速化するため、農地中間管理機構の事業運営、農地の出し手に対する協力金の交付等を支援 **305億円** (—)
- ②農地の大区画化等の推進<公共> **【補正予算】**  
・農地中間管理機構による農地の借受け・貸付けとの連携等により、農地の大区画化・汎用化等を推進 **450億円** (1,064億円 (1,035億円))
- ③耕作放棄地再生利用緊急対策交付金 **【補正予算】**  
・荒廃した耕作放棄地を再生利用するための雑草・雑木除去や土づくり等の取組を支援 **2億円** (所要額 19億円 (19億円))

#### ■新たな経営所得安定対策

- ①畑作物の直接支払交付金 **【補正予算】**  
・麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいし等の畑作物を生産する農業者の経営安定のための交付金の交付 **2,093億円** (所要額 2,517億円 (2,123億円))
- ②水田活用の直接支払交付金 **【補正予算】**  
・飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化を図るとともに、産地交付金により、多収性専用品種の導入、加工用米の複数年契約、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するための取組を支援 **2,770億円** (所要額 2,517億円 (2,123億円))  
うち産地交付金 **804億円** (539億円)
- ③水田フル活用実践緊急対策 **【補正予算】**  
・水田における低コスト生産のための高効率機械の導入や施設の機能向上、飼料用米を利用・保管するための機械の導入を支援 **282億円**
- ④米の直接支払交付金 **【補正予算】**  
・米を生産する農業者の経営安定のための交付金の交付 **806億円** (所要額 1,613億円)  
(29年産までの時限装置(30年産から廃止))

#### ■強い農林水産業のための基盤づくり

- (1)農林水産業の基盤整備(競争力強化・国土強靱化) **【補正予算】**
- ①農業農村整備事業<公共> **2,689億円** (2,627億円) **800億円**
- ・農地集積の加速化、農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や地かんがい等の整備、老朽化した農業水利施設の長寿命化・耐震化対策等を推進
- ②森林整備事業<公共> **【補正予算】**  
・国産材の安定供給体制を構築するとともに、地球温暖化を防止するための間伐等の森林施業や路網の整備等を推進 **274億円** (1,185億円)
- ③治山事業<公共> **【補正予算】**  
・地震・集中豪雨等に対する山地防災力の強化のため、荒廃山地の復旧対策、津波に強い海岸防災林の整備等を推進 **165億円** (616億円)
- ④水産基盤整備事業<公共> **【補正予算】**  
・流通拠点漁港の衛生管理対策や水産資源回復対策、老朽化した漁港施設の長寿命化・耐震化対策等を推進 **110億円** (721億円)
- ⑤農山漁村地域整備交付金<公共> **【補正予算】**  
・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援 **1,122億円** (1,128億円)

#### ■日本型直接支払の創設

- ①多面的機能支払交付金【新規】 **483億円**  
・農業者等が構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付 (—)
- ②中山間地域等直接支払交付金 **285億円** (285億円)  
・中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付
- ③環境保全型農業直接支援対策 **26億円** (26億円)  
・化学肥料及び農薬の5割低減とセットで、地球温暖化防止等に効果の高い営農活動を行う農業者等を支援

# 「農業農村整備の集い」開催される!

## 予算復活に向けて



全国水土里ネット主催の「農業農村整備の集い」が11月26日、東京都千代田区平河町の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボア」で開催された。

平成22年度に大幅に削減された農業農村整備予算は、平成25年度には平成24年度の補正予算とあわせ、元の姿に復活しつつあるが、この流れを止めることなく、平成26年度当初予算においても、その復活が実感できる規模を確保する必要があり、農業・農村の重要性と、それを支える農業農村整備の役割を広く国民にアピールし、新たな農政の発展について認識と決意の高揚を図ろうと、昨年が続く開催となった。

当日は、全国水土里ネット野中会長の挨拶、林農林水産大臣の祝辞に続き、情勢報告、事例発表が行われ、終わりに農業農村整備予算の復活と担い手への面的集積に不可欠な農地整備や国土強靱化の考えに即した防災・減災対策の推進を図ることなどを盛り込んだ要請書が満場一致で採択された。

本県からは、高員会長を始めとする水土里ネット秋田の役職員、国営事業を実施している各土地改良区理事長などが参加。集い終了後は、本県選出の国会議員への要請活動を行い、農業農村整備予算の復活と、各種施策の着実な推進を強く要望した。



## 農林水産大臣賞の現地視察 ～農業農村整備優良地区コンクール(全国水土里ネット)～



### － 選考委員が土地改良区役職員と意見交換 －

11月19日、平成25年度農業農村整備優良地区コンクール選定審査会(全土連主催)の委員などが、昨年度に同コンクールで農林水産大臣賞を受賞した大仙市協和小種土地改良区を訪れ、受賞後の取り組みや活動の変化などに関して意見交換を行った。

今回、小種地区を訪れたのは、佐藤洋平委員(東京大学名誉教授・中山間地域フォーラム会長)と芳見弘一委員(全国地方新聞社連合会副会長)、全国水土里ネットの担当者など4名。現地では、農事組合法人「たねっこ」のライスセンターと野菜加工センターを視察したほか、同土地改良区事務所で意見交換を行った。

土地改良区に加藤末道理事長は、「ほ場整備事業を契機に、改良区と法人が連携して地域農業の活性化に取り組んできた結果が受賞に繋がった。TPP問題や減反政策の見直しなど、先行きの見えない状況が続くが、これまで以上に法人と連携を図りながら、直面する課題を乗り越えていきたいと思う」と、今後の地域農業の取り組みに対し決意を新たにしていた。

平成25年度

# 秋田県土地改良事業推進大会

## 農業農村整備予算概算要求額の満額確保に向けて



11月1日(金)、第136回秋田県種苗交換会の協賛行事として、本会主催による「平成25年度秋田県土地改良事業推進大会」が、仙北市民会館で会員及び関係者など約1,150名が参加し、来賓として難波和聡農林水産部次長(佐竹知事代理)、門脇光浩仙北市長、中泉松司参議院議員ほか関係者各位がご臨席のもと開催された。

大会では、高貝会長が「本年度予算は、大幅に削減される以前の水準を超える額が確保された。来年度予算においても、概算要求額が満額確保されるよう、一段のご支援をお願いしたい」などと挨拶した。

次に、土地改良功労並びに功績者表彰、21世紀土地改良区創造運動表彰、来賓祝辞の後、県当局による「秋田県農業農村整備事業の現状報告」に続いて、「TPP交渉においては、農業の重要5項目の関税を維持し、国益を最大化すること」などの大会決議を満場一致で採択し、閉会した。

なお、今回表彰された、団体、個人は、次のとおり。

### 土地改良功労表彰

#### ●知事表彰

【団体】

田代町土地改良区(理事長 斉藤 一)

秋田県仙北南部土地改良区(理事長 畑山傳一)

【個人】

金 慶一(河辺土地改良区理事長)

佐藤 順子(秋田県能代地区土地改良区総務課長)

鈴木ノリ子(大仙市協和土地改良区会計主任)

### 土地改良功績者表彰

#### ●会長表彰

市川 一(山本郡藤里町藤琴土地改良区理事長)

伊藤作一郎(仁井田堰土地改良区理事長)

佐々木紘一(内越土地改良区理事長)

進藤 峰晴(大仙市大曲土地改良区事務局長)

上田 晃(前大森土地改良区理事長：故人)

### 21世紀土地改良区創造運動表彰

#### ●知事表彰

男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区(水土里ネット一ノ目潟)

理事長 戸嶋 幸三

#### ●奨励賞

北秋田市綴子土地改良区(水土里ネット綴子)

理事長 米澤 一



## 農業用施設賠償責任保険・団体傷害保険制度のご案内

みなさまが、安心して『施設維持および管理活動』に従事していただくための平成26年度団体保険制度をご案内いたします。

# 安心

## 安心の補償

#### ●農業用施設賠償責任保険 <相手への賠償>

- ◆土地改良区等が所有・使用・管理する施設等が原因となる第三者への賠償事故による損害を補償します。
- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃などの施設維持・管理活動中に作業員のミスによる第三者への賠償事故による損害を補償します。

※「賠償事故」とは、法律上の損害賠償責任が発生した事故のこと。

#### ●団体傷害保険 <ご本人の賠償>

- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃・施設の保守管理などの施設維持・管理活動中に偶然な事故でケガをした場合、保険金をお支払いします。

※他の保険等とは関係なくお支払いします。健康保険、生命保険、政府労災など他の保険や、加害者から受ける損害賠償金などとは関係なくお支払いします。